

## まちの将来像（ビジョン）について

### まちの将来像（ビジョン）とは

地区計画などの規制誘導ルール策定を前提とした、従来型の地区街づくりプランにおける将来像（目標・方針）を示すものではなく、地区の住民や地区内で活動する団体等が集まり、**地区でやりたいこと、やり続けたいことなどを整理しながら、実現したい将来のまちの姿としてとりまとめた緩やかなもの**

※街づくりを前提とした将来像とする。

※街づくりプロジェクトの推進を後押しするツールとなる。



### 作成するビジョンのイメージ

・市で策定した「ビジョン」は、『(仮称)都市づくりのマスタープラン(地区別パート編)』に位置付けられる。

#### 作成するビジョン(案)

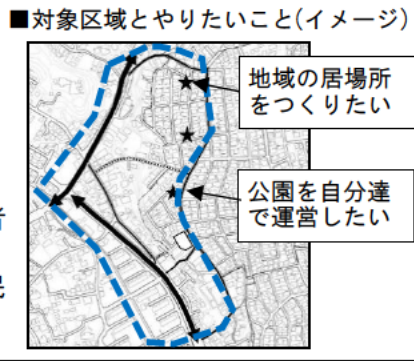
<b>名称</b>	ビジョン案の名称	地域で話し合いながら、地域の将来像(ビジョン案)としてとりまとめる。
<b>目標</b>	目標とするまちの将来像	
<b>方針</b>	目標を実現するための街づくりの方針 例) ○ゆとりのある良好な住環境を守っていきます。 ○緑豊かな環境を守っていきます。 など	
<b>対象区域</b>	ビジョン案の区域	

**取組みたい具体的な内容**

方針に基づき、地域でやりたい活動、やり続けたい活動を記載

例)  
①空き家を住民で管理して子どもや高齢者の居場所をつくっていきます。  
②地域の憩いの場となる公園の管理を住民でルールを作って運用していきます。



『(仮称)都市づくりのマスタープラン(地区別パート編)』への位置づけ  
策定されたビジョンのうち、名称・目標・方針・対象区域は、地域のマスタープランとして(仮称)都市づくりのマスタープランの地区別パート編へ追加され、地域住民のやりたいことのプラットフォームとしていく。

### ビジョンづくりに至る様々なプロセス

地域でビジョン作成に取り組むプロセスには、様々なパターンがあり、例えば以下の3つのプロセスが考えられる。

- 街づくりプロジェクト先行型 住民主体**  
街づくりプロジェクトの実施がきっかけとなり、活動団体同士がつながり地域のビジョン作成に取り組む場合
- ビジョン先行型 住民主体**  
地域の課題等を共有する中で課題解決に向けて、地域住民が主体となってビジョン作成に取り組む場合
- ビジョン先行型 行政主導**  
開発事業を伴うなど、行政が積極的に地域のまちづくりに関与してビジョンを作成する場合

#### 街づくりプロジェクト先行型のビジョン作成までのイメージ

